

いわて子育てネット ニュースレター

いわて子育てネット は...

- お母さん、お父さんの子育てを応援します。
- 親育ち、子育てを応援します。
- 子育て中の親はもちろん、子育てサークル、子育て支援団体、医療機関、行政、企業、社会をネットワークし、楽しく安心してできる子育て環境の向上をめざします。



vol.11

2008.03.01.

財団法人岩手県長寿社会振興財団助成

「伝われ、つなかれ、広かれ、未来を担う子どもたちに」世代間交流事業」

「盛岡城跡公園で遊ぼう」～冬の遊び伝授します～

最近、雪の積もった公園に行って遊んだことはありますか？

1月11日「盛岡城跡公園で遊ぼう」～冬の遊び伝授します～では、22人の親子と遊びのスタッフ15人が一緒になって雪の中で夢中になって遊びました。

今回は、「盛岡世代にかける橋」や、子どもの時に大いに岩手公園（盛岡城跡公園の旧名）で遊んだ大人たちがファシリテーターとなって、凧揚げ、雪遊び、雪上リレーなどを行いました。中でも圧巻だったのは、ダンボールやビニール袋を使った急な長い坂でのそり遊び。大人も子どもも「わあー、わあー、」言いながらスリルを味わいました。

お昼から桜山神社の社務所に場所を変え、おいしい豚汁に舌鼓を打ちながら、遊びの先輩方の話を聞きました。「前は、冬だって子どもたちがいっぱい遊んでいたんだけど、人っ子ひとりいないね」「昔は遊びに親なんて付いてこないし、そりでドジって池に落ちたらすぐ帰らなきゃならないルールがあった。遊びの中で、自分の身は自分で守る意識ができていった」「今回のそりの乗り方を見て、平気で後ろ向きで滑っていく子どもがいた。いつも親など大人が守ってくれているから、危険に関して無防備なんだねえ」。僅かな期間に子どもたちの遊びが変わり、遊びの中で学べた機会が失われているのだとあらためて感じました。

街の中の真ん中にこんなにいいロケーションがあるのでしたら、ぜひ、活用していきたいものです。冬だって外で遊ぼう！

「盛岡城跡公園で遊ぼう」
～冬の遊び伝授します～を終えて 1

子育ての視点で考えるまちづくりフォーラム
今、子育て支援に望まれるもの 2

「こんにちは赤ちゃん事業」の役割
赤ちゃんとお母さん
子育てドクター談話室 3

会員からのメッセージ
私の子育て
三つの「安心」
いわて子育てネット 会員募集 編集後記 4

(写真上中下：「盛岡城跡公園で遊ぼう」の様子)



財団法人岩手県福祉基金特別基金助成
『子育ての視点で考えるまちづくり調査研究事業』

報告

子育て
の視点で考える
まちづくり
フォーラム

去る2月2日、LiRiO3F イベントホールにて、「子育ての視点で考えるまちづくりフォーラム」を開催しました。本件は『子育ての視点で考えるまちづくり調査研究事業』の一環です。これまでの調査研究から、「食」「情報」「バス」という

キーワードを軸に、フォーラムを展開しました。

フォーラムの内容は、事例発表・成果発表・パネルディスカッションの3部構成です。

まずは、事例発表。「食」に関する取り組みについて、ハンバーグの店ベル大通店の及川敏氏、吉田勝行氏にご紹介いただきました。「情報」については、株式会社マ・シェリ取締役編集長の村上幸子氏に、「情報」に携わる想いを述べていただきました。「バス」については、盛岡市建設部交通政策課課長補佐の古山裕康氏に、現状と今後の展望をお話いただきました。

次に、調査研究の成果発表。「ママさんライター2期生」の木澤奈美氏と佐藤淑恵氏に、これまで積み重ねてきたものを、発表していただきました。

最後に、パネルディスカッション。パネリストは5名。盛岡大通商店街協同組合事務局長の阿部利幸氏、事例発表の村上幸子氏および古山裕康氏、成果発表の木澤奈美氏、当法人副理事長の両川いずみです。コーディネーターは、岩手県立大学総合政策学部准教授の倉原宗孝氏に、務めていただきました。パネルディスカッションを通じ、積み重ね・情報・発見、それぞれの重要性を確認しました。また、倉原氏は「様々なものを抱き合わせ、既成事実をつくりながら、

(写真：成果発表の様子)



(写真：会場からのご意見の様子)



(写真：パネルディスカッションの様子)

次の展開へと繋げていくことが有効」とまとめました。

会場からも多数ご意見をいただき、フォーラムは、盛況に内に幕を閉じました。来場者は、子育て当事者・支援者、まちづくり分野のNPO、行政の関係者など、多岐に渡りました。終了後のアンケートでは、「新しい視点で、とても興味深い」との声も。今後の展開が、期待されている模様です。

※ 現在、事業報告書を作成中です。事務局までお問い合わせください。

今、子育て支援に望まれるもの

「健やか親子21」という言葉をご存知でしょうか。次の世代を担う子どもたちのために、2001年から2010年までの10年間に多くの課題を解決しようと企画したプランです。目標達成までには残り少ない年月になりました。

このプランは

- 1 思春期の自殺の減少、性教育の充実、薬物乱用防止など
- 2 安全で安心な出産の場の確保、産後うつへの減少など
- 3 子どもの不慮の事故防止や突然死の防止など
- 4 育児不安の解消や虐待の防止など

などについて具体的に達成への数値目標を立て、行政だけではなく、学校や医療機関、住民、NPO、企業など国民全体の運動として、力を合わせて行動しようと呼びかけて来ましたが、資金不足、人手不足、意識不足のため目標には程遠い現状です。しかし、だからといって諦めるわけにはいきません。

昨年、地域の子どもたちが各種祭りの際に着てい

た擦り切れた半纏を新調するために、地域の商店や企業に協力を呼びかけたところ、予想をはるかに超す賛助金が集まりました。大喜びで半纏を新調しました。工夫を凝らせば地域や企業にはまだまだ潜在する力があることを感じた次第です。



小林高 (いわて子育てネット 顧問)

コラム

盛岡市公募型協働推進事業

「NPOと行政の協働による「こんにちは、赤ちゃん」事業の実践」

「こんにちは赤ちゃん事業」の役割

思えば、人生の中で、妊娠、出産ほど心身ともに変化の大きい出来事はありません。特に初産のときは、こんなに不自由で、自分がこんなにデリケートで、無力だったのかと心細い感覚と、これから子どもを育てていくという責任の重さと大きな不安の中にいたような気がします。こんなとき明るくサポートしてくれる人に「お母さん、お母さん」と呼びかけられ、自分が母親という自覚と、少しずつ赤ちゃんに余裕を持って接することが一歩一歩できていったような気がします。私の場合サポーターは母でしたが、今の親世代は忙しくいつまでもそばにいてもらえません。

子育てにはサポートが必要です。母親と赤ちゃんだけの寂しい子育て環境に外の世界をつなげるパイプが必要です。家庭訪問員が子育て相談を受けながら、子育て情報を伝えていく、必要なサービスにつなげていく「こんにちは赤ちゃん事業」はそんな役割があります。家庭訪問ニーズ調査では、72%の人が事業実施に対し肯定的な意見をあげました。また、ワークショップからは、本事業の重要性を理解し、必要性を訴え、何らかの形で関わりたいと考えている人が地域の中に多くいることが分かりました。実施主体は市町村です。家庭の子育てと地域力を上手にコーディネートし、子育て環境が向上することを期待します。

両川いずみ（いわて子育てネット 副理事長）

報告

赤ちゃんとお母さん

コラム

盛岡市では、年間に約2,700人の赤ちゃんが生まれ、その約8割は、夫婦と子どもだけというご家庭です。お父さんが仕事に出かけると一日中、赤ちゃんとお母さん二人っきりという方も少なくありません。

初めての子育ては、いろいろと不安なことが多いもの。オムツを替えても授乳をしても、何をしても泣きやまなかったり、自分一人で子育てするのは心細いものです。また、産後は睡眠不足や慣れない育児の疲れで、ストレスを抱え、気持ちが落ち込んだりすることも少なくありません。そんな時、ちょっと相談できる人、話を聞いてもらえる人がいると、どんなに心強いことでしょうか。

盛岡市保健センターでは、お母さん方の心配事が早く改善されるように、赤ちゃんの家庭訪問を行っています。全てのご家庭に伺うことは難しい状況です。

先日、「こんにちは赤ちゃん事業」のワークショップで、子育て中のお母さんを何とか応援したいという熱意にあふれる方々にお会いでき、とても心強く思いました。今後も、地域の方々の力をお借りしながら、出来るだけ多くのご家庭を訪問し、子育ての悩みを聴いたり子育て情報をお伝えし、安心して楽しみながら子育てができるまちづくりをめざしていきたいと思っております。

菅原順子（盛岡市保健センター 母子保健係 保健主査）



財団法人岩手県福祉基金一般基金助成「子育てママの底力」支援事業 子育てドクター談話室



報告

今年度、財団法人岩手県福祉基金より助成を受け、『「子育てママの底力」支援事業』を推進してきました。子育てママの不安や悩みの軽減、解消。子育てママの強い要望を受け小児歯科、産婦人科、眼科、皮膚科、小児科、精神科の先生方に来て頂き、なかなか診療室では聞けない話をお茶をしながら談話形式に行いました。

- 第1回 小児歯科編「むし歯注意報」
(歯科医師)
- 第2回 産婦人科編「新しい生命とともに」
(村井産婦人科医院 院長 村井軍一先生)
- 第3回 眼科編「目で見ると目の不思議」
(松田眼科クリニック 理事長 松田恭一先生)
- 第4回 皮膚科編「気になる！肌のトラブル」
(中村・北條クリニック 院長 中村浩昭先生)
- 第5回 小児科編「小児科医の宝物」
(みうら小児科 院長 三浦義孝先生)
- 第6回 精神科編「“こころ”に耳を傾ける」
(岩手晴和病院 理事長 智田文徳先生)

普段、「こんな事聞いていいのかなあ」「気になるけど、わざわざ聞きに行くのも…」など、思っても聞けないこと、子育てママの不安解消の場として、シリーズで6回開催しました。

毎日、時間に追われながらの子育てに不安はつきものです。そんな子育てママの応援、未来を担う子どもの成長をママも楽しみながらしてほしいという願いを込めました。

参加されたママさん達も「普段聞けない事や、思っている事を聞いて安心しました」「楽しかった」「ぜひ次回も参加したいです」と多くの感想を頂き、大好評で終了することができました。



(写真：眼科編の様子)



(写真：精神科編の様子)

2歳の娘は、ますますおしゃべりも上手になり、歌を歌いながら踊ったり、ハサミを使えるようになりました。

そんな娘が今1番大好きなことはお手伝いです。洗濯物を干す時は、靴下やハンカチを器用に洗濯バサミを使って干してくれます。お料理をする時は、切った材料をお鍋やボールに入れたり、キャベツをちぎってくれます。掃除をする時は、モップを持って掃除をしてくれます。なんでもお手伝いしたがる娘。

一緒にやるととても時間がかかりますが、料理をお手伝いしてくれるようになってから苦手な野菜を少しずつ食べられるようになり、作る時も食べる時も「楽しいね!!」と言うようになりました。娘がお手伝いしている姿を見ると、私のやっていることを良く見ているなあと感じ、あまりマネしてほしくないことをマネされると反省したりもします。

「あぶないよ!!もー!!」と言う娘。私がよく娘にそう叱っているのだと思います。反省…子育てって面白いです。

私の子育て

藤澤優希 (いわて子育てネット 正会員)
(ママさんライター1期生)

いわて子育てネットに関わって、私が心掛けてるのは、三つの『安心』です。

第一の安心は、お子さまの安心です。たとえばイベントや講座の託児でも、緊張を要する病児の託児でも、何より最優先させるのがお子さまの安心感です。託された時間を安心して安全に過ごせるように目配り気配りを心掛けています。

第二の安心は、親御さんの安心です。短時間の講座参加でも、一日のお仕事でも、親御さんがサポート会員を信頼し、安心して託児を依頼することができ、そして、その時はお子さまを忘れるくらい講座やお仕事に集中できるよう願っています。

第三の安心は、サポート会員の安心です。お子さまの年月齢、気質、体質、病状等に的確に対応し、自身と責任を持ち、安心して託児に臨むため、フォローアップ研修やサポート会等、積極的に参加して、より良いサポートができるよう心掛けています。

三つの『安心』

欠端裕美 (いわて子育てネット 正会員)
(緊急サポートネットワーク事業 サポート会員)

会員からのメッセージ

賛助会員(個人) 渡辺秀華、根本瑩子、馬場より子、高橋雪文、樋下正信、小野寺好、飯澤匡 賛助会員(団体) マタニティクリニック小見産婦人科、有限会社バルーン・スケッチ、有限会社ティーシーアイ、医療法人さくら会さくらウイメンズクリニック、夕顔瀬産婦人科医院、西島産婦人科医院・西島こどもクリニック、黒川産婦人科医院、アイクレオ株式会社仙台営業所、特定非営利活動法人わこの家、小林産婦人科医院、岩手ヤクルト販売株式会社、村井産婦人科医院

特定非営利活動法人 いわて子育てネット

正会員(個人) 59 正会員(団体) 3 プレ会員(個人) 5 プレ会員(団体) 4
 理事長 村井軍一 (村井産婦人科医院院長)
 副理事長 両川いずみ (ヒューマンステーション主宰)
 兼事務局長
 理事 吉田耕太郎 (産科婦人科吉田医院院長)
 三浦義孝 (みうら小児科院長)
 若林みどり (桜城・松園児童館指導員)
 今松晴美 (上米内児童館指導員)
 智田文徳 (岩手清和病院理事長)
 黒川賀重 (黒川産婦人科医院院長)
 小林 高 (小林産婦人科医院院長)
 長山 洋 (岩手県立大学社会福祉学部教授)
 高橋雪文 (岩手県議会議員)
 関根敏伸 (岩手県議会議員)
 樋下正信 (岩手県議会議員)
 小野寺好 (岩手県議会議員)
 飯澤 匡 (岩手県議会議員)
 工藤大輔 (岩手県議会議員)
 三浦陽子 (岩手県議会議員)

監事 顧問



会員募集

詳しくは事務局まで

年会費	個人	団体
正会員	3,000円	5,000円
プレ会員	1,000円	
賛助会員	10,000円 (一口)	

編集後記

早春の候、ニューズレター第11号が出来上がりました。当法人事務局は、盛岡市つどいの広場KOKKOの上階にあります。KOKKOの開館日には、いつも、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。年度末で多忙を極める事務局ですが、スタッフ一同、子どもたちの声に癒され、励まされながら、頑張っている次第です。次年度も、元気な声と素敵な笑顔にたくさん出会えますように。

MK (いわて子育てネット 事務局)

編集・発行

特定非営利活動法人いわて子育てネット

〒: 020-0022
 ADD: 岩手県盛岡市大通二丁目6-8
 セントラルガーデンスクエア506
 TEL: 019-652-2910 FAX: 019-605-8272
 E-MAIL: info@iwate-kosodate.net
 URL: http://www.iwate-kosodate.net/